

# 気温1.5度上昇 10年早く

## IPCC報告「21〜40年に」

国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）3面きょうのことは9日、産業革命前と比べた世界の気温上昇が2021〜40年に1.5度に達するとの予測を公表した。18年の想定より10年ほど早くなる。人間活動の温暖化への影響は「疑う余地がない」と断定した。自然災害を増やす温暖化を抑えるには二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出を実質ゼロにする必要があると指摘した。（関連記事3面に）

### パリ協定達成難しく

温暖化対策の国際的枠組みのパリ協定は気温上昇2度未満を目標とし、1.5度以内を努力目標とする。達成に向け先進各国は4月の米国主催の首脳会議（サミット）で相次ぎ温暖化ガスの新たな削減目標を表明した。

今回の報告書は気温上昇を抑える難しさを改めて浮き彫りにした。10月、米からの第26回国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP26）での議論が次の焦点になる。

IPCCは5つのシナリオを示した。21〜40年

平均気温が上昇すると異常気象などが増える

| 温度上昇             |     | 1度<br>(現在) | 1.5度<br>の場合           | 2度<br>の場合             |
|------------------|-----|------------|-----------------------|-----------------------|
|                  |     | 気温         | +1.2度                 | +2度                   |
| 熱波など<br>極端な高温    | 発生率 | 4.8倍       | 8.6倍                  | 13.9倍                 |
|                  | 雨量  | +6.7%      | +10.5%                | +14%                  |
| 極端な大雨            | 発生率 | 1.3倍       | 1.5倍                  | 1.7倍                  |
|                  | 発生率 | 1.7倍       | 2倍                    | 2.4倍                  |
| 農業に被害を<br>及ぼす干ばつ | 発生率 | 1.7倍       | 2倍                    | 2.4倍                  |
|                  | 高さ  | —          | 0.28~<br>0.55<br>メートル | 0.32~<br>0.62<br>メートル |

(注) IPCC第1作業部会第6次評価報告書をもとに作成

18年の報告書は1.5度になるのは30〜52年とみていた。予測モデルを化石燃料への依存が続ける幅は最善の場合でも41〜60年に1.6度になる。10年ほど早まった。上昇データも活用したところ改良し、新たに北極圏の最悪の場合は41〜60年に2.4度、81〜2100年

均で1.09度と分析した。18年の報告書は06〜15年平均で0.87度だった。1850〜2019年の二酸化炭素排出量は累計2390ギガトン。気温上昇を1.5度以内に抑えられる20年以降の排出余地は400ギガトンとみる。今の排出量は年30〜40ギガ

ンで増加傾向。10年ほど1.5度に達する。産業革命前は半世紀に1回だった極端な猛暑は1.5度の上昇で9倍、2度で14倍に増えると予測する。強烈な熱帯低気圧の発生率も上がり、干ばつも深刻になる。平均海面水位は直近120年で0.2メートル上昇すると予測する。1.5度の上昇で9倍、2度で14倍に増えると予測する。今のペースは1971年までの年1.3ミリ、気候変動のリスクを正しく評価し、対策を急ぐ必要がある。